

キヤノン株式会社
2025年経営方針説明会

メディカルグループ

2025年3月7日

副社長執行役員 メディカルグループ管掌

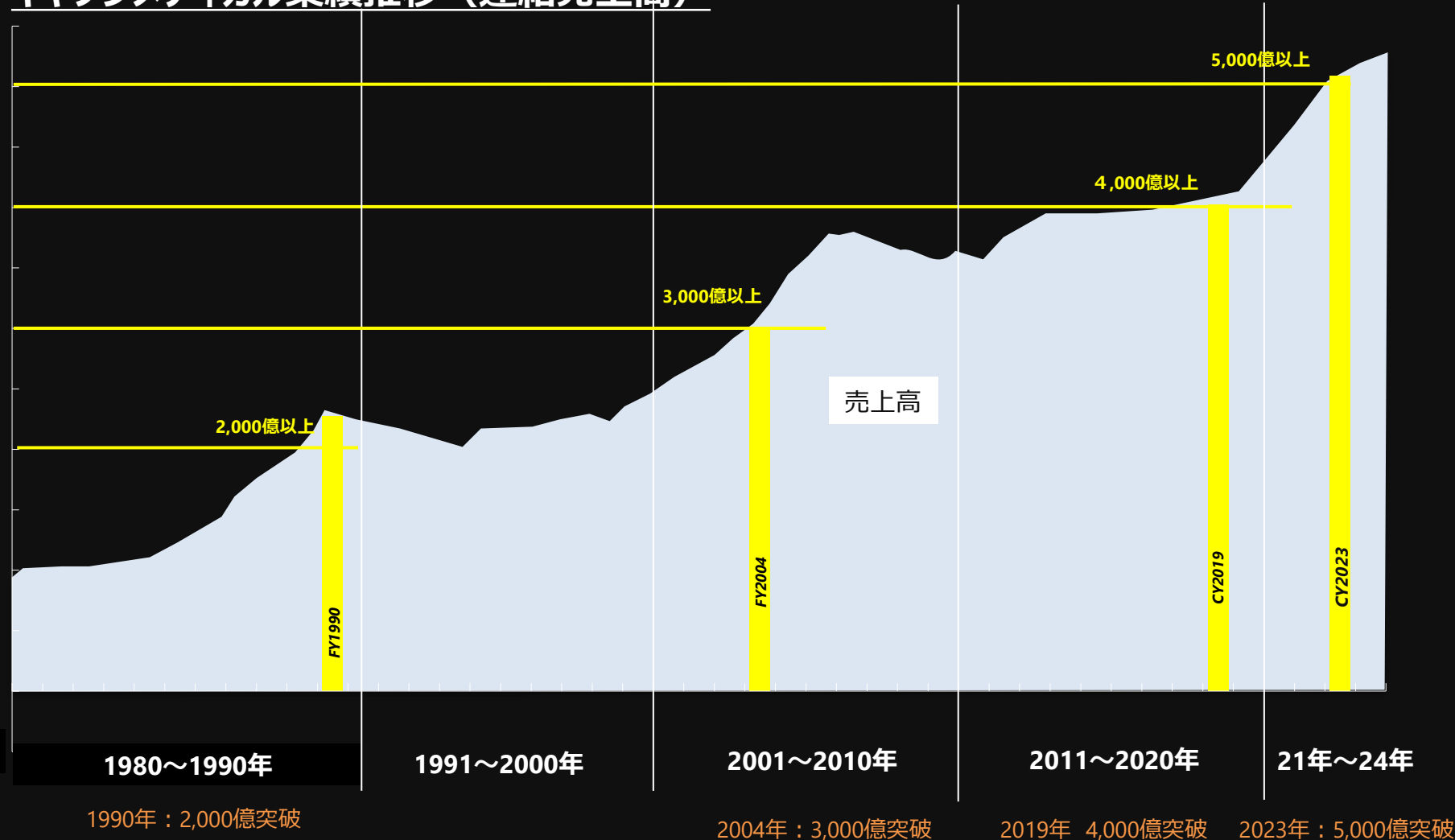
瀧口 登志夫

Canon

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

2024年（まで）の成果と課題 [売上成長]

キヤノンメディカル業績推移（連結売上高）



成果

- 2019年以降、4年で+1,000億以上を達成
- 2020~2024年売上CAGR：+7%

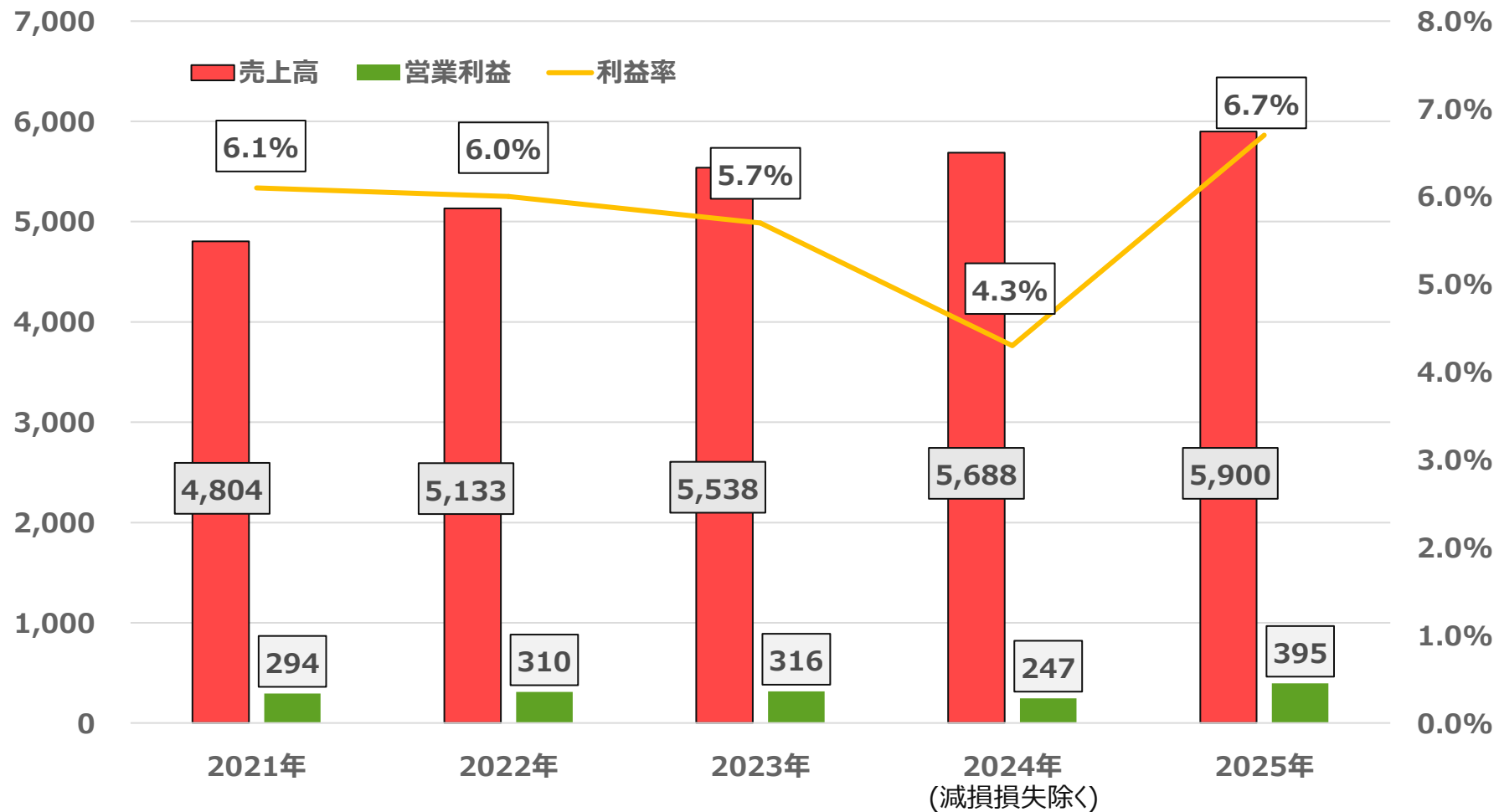
課題

- **外部環境の変化**
 - ・地政学的リスク影響
 - ・インフレ／部材価格高騰
- **収益性**
 - ・より効率的なオペレーション

メディカル PL推移

売上高(億円)

利益率



成果と課題 & 今後の戦略・取り組み

成果と課題

【2024年売上】：5,688億円（前年比 +2.7%）【営業利益】：247億円（同 ▲22.1%）

【課題】 ①事業運営の効率化推進による利益率向上

②為替や地政学の急激な変化に対する“レジリエンシー”の確保

③継続した製品力・販売力の強化（市場ニーズの変化に即したタイムリーな製品投入）



今後の成長に向けた取り組み

- メディカル事業革新委員会の立ち上げ、キヤノンIncとキヤノンメディカルシステムズ（以下CMSC）の一体化
- 海外事業構造見直し、海外固定費の適正化
- CHCU¹を中心とした米国事業強化、米国AM²を増強、米国販売代理店網の拡充
- キヤノン独自AI技術搭載CTの製品化、画像診断装置のワークフロー効率化ニーズを満たす製品開発等の推進。次世代CT実用化に向けた研究（2025年度リリース予定）、グローバルサービス改革

1:キヤノンヘルスケアUSA。2022年11月にアメリカの医療産業の中心地のひとつであるクリーブランドに設立。2:アカウントマネージャー

メディカル事業革新委員会の体制

目的

- キヤノンメディカルシステムズをキヤノンの組織・人材・ノウハウ・カルチャーと一体化
- メディカル事業をキヤノンの柱の一つにすべく、事業構造改革・体制強化を行い、高収益と高成長を実現する

メディカル事業革新委員会

事業改革WG

- 組織再編：メディカル事業のキヤノン本体への統合
- 拠点再編：本社・開発機能の下丸子への移転
- ITインフラの整備・統合

SCM改革WG

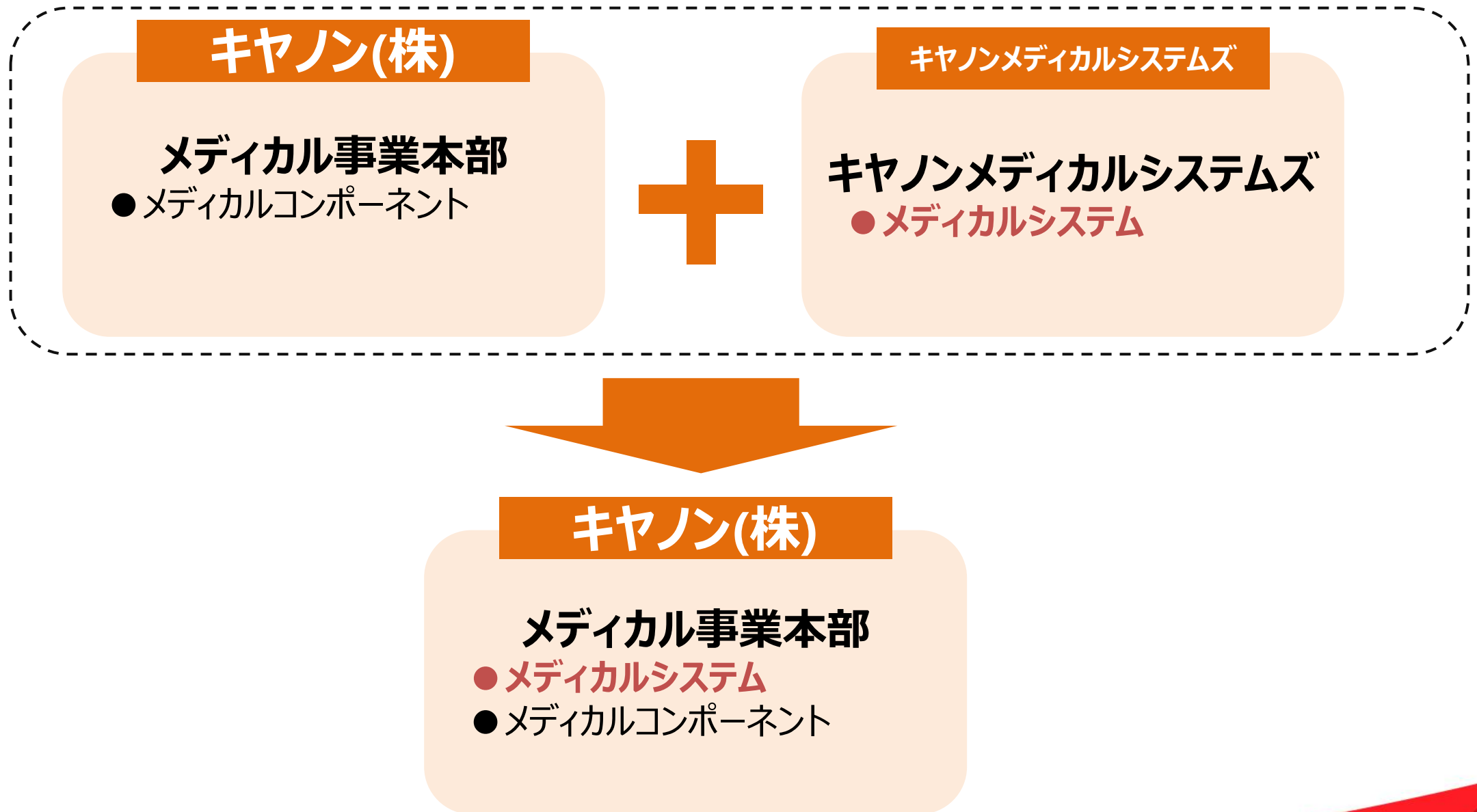
- SCM(調達・生産・物流)体制・プロセスの改革
- 生産性の向上、品質改善・原価低減

※SCM：Supply Chain Management

開発改革WG

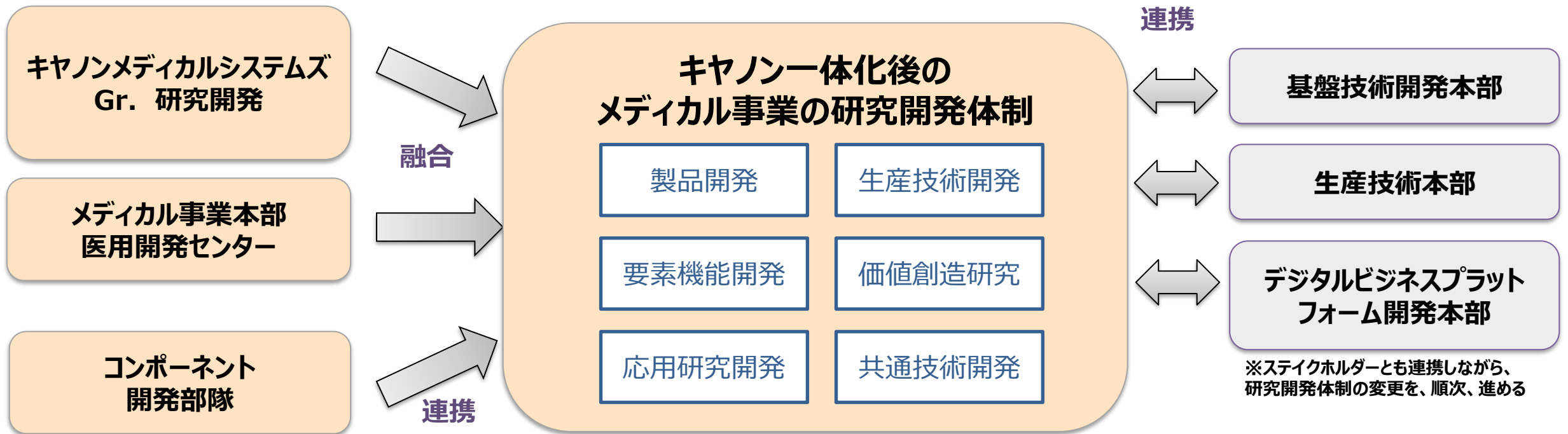
- 開発体制・プロセスの改革
- 開発効率の向上、製品競争力の強化
- キヤノン人材のメディカル事業部門での活用

キヤノン株式会社とキヤノンメディカルシステムズの一体化



新しい研究開発体制へのTransformation

メディカル事業の課題を解決し、新しい価値創出を推進する
研究開発体制の構築への転換を目指す



アメリカ市場の販売網の強化再編成

- キヤノンヘルスケアUSA（CHCU）はメディカル事業の米国本社機能を担う
- ホールディング会社として米国内のメディカル関係会社を統括する



アップストリームマーケティング

- 将来に向けたグローバルビジネス戦略策定
- 市場・臨床要求に対するソリューション創出

本社機能拡大・クリーブランドクリニックの連携強化（IBMビルの購入）



キヤノンメディカルアカデミー開設

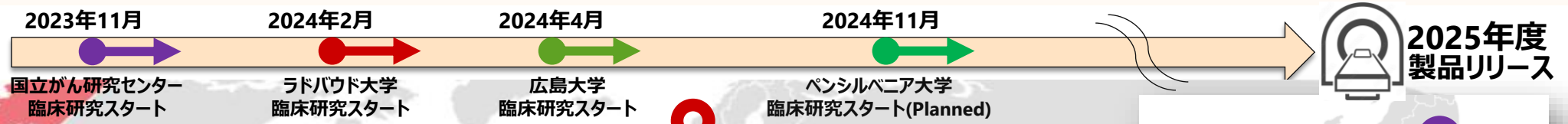


ダウンストリームマーケティング

- 米国アカウントマネージャーの増強
- 米国販売代理店の拡充

Canon PCCT研究用システム：グローバル研究とゴール

- 『Global No.1の最高画質と低被ばく』の実現に向け、早期の実証研究を推進中
- 製品版投入に向けてグローバルに「マーケット」と「アカデミック」に対し、Canon PCCT技術への認知度と期待感を最大化
- Redlen社製検出器やディープ・ラーニング再構成技術の早期臨床評価により、製品/サービスの「価値」を高める取り組みを推進
- 各施設の得意な臨床領域にフォーカスし、日欧米からグローバルに広範な臨床価値を発信する



ペンシルベニア大学

November 27, 2024

キヤノンがフォトンカウンティングCTの実現に向けて米国ペンシルベニア大学のPenn Medicineと共同研究を開始

キヤノン株式会社、キヤノンメディカルシステムズ株式会社、Canon Healthcare USA, Inc.は、米国ペンシルベニア大学系列の医療グループ [Penn Medicine] 1と、次世代のX線CTとして期待されるフォトンカウンティングCT (以下PCCT) の早期実現を目指し、共同研究を開始しました。ペンシルベニア大学病院に、世界で4台目となるキヤノンの装置を設置し、臨床現場における研究を進めます。特に胸部や心臓、筋梗塞系などにおける画像診断の専門分野を中心テーマとして、PCCTの可能性を開拓します。

Penn Medicineの研究者

<https://jp.medical.canon/News/PressRelease/Detail/158007-834>

ラドバウド大学

February 26, 2024

ラドバウド大学メディカルセンターとフォトンカウンティングCTの臨床研究を開始

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 (代表取締役社長：瀧口 登志夫、本社：栃木県大田原市) は、ラドバウド大学メディカルセンター (Radboud University Medical Center, Chair, Dr. Bertine Lahuis、所在地：オランダ ナイメーヘン) と次世代のX線CTとして期待されるフォトンカウンティングCT (以下PCCT) の、世界で2台目となる当社装置を用いた臨床研究を1月下旬より開始しました。

マティス プロコップ教授 (左) と研究者
ラドバウド大学メディカルセンター

<https://jp.medical.canon/News/PressRelease/Detail/147339-834>

広島大学

April 8, 2024

広島大学とフォトンカウンティングCTでの臨床研究を開始

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 (代表取締役社長：瀧口 登志夫、本社：栃木県大田原市) は、広島大学 (学長：越智光夫、所在地：広島県広島市) と次世代のX線CTとして期待されるフォトンカウンティングCT (以下PCCT) の早期実用化を目指し、世界で3台目となる当社装置を用いた臨床研究を開始しました。

実行副理 (左から藤田) と研究者の先陣
広島大学病院

<https://jp.medical.canon/News/PressRelease/Detail/149822-834>

国立がん研究センター 先端医療開発センター

国産初 フォトンカウンティング検出器搭載型X線CTを国立がん研究センター先端医療開発センターに設置

キヤノン株式会社 (以下、キヤノン) は昨年、半導体検出器モジュールの開発・製造において世界トップクラスの技術を有するレドレン・テクノロジーズ社 (以下、レドレン) を買収しました¹⁾。このたびグループ会社であるキヤノンメディカルシステムズ株式会社 (以下、キヤノンメディカル) が、国産としては初めて²⁾、レドレンの技術を生かしたフォトンカウンティング検出器搭載のX線CT³⁾ (フォトンカウンティングCT、以下PCCT) を開発し、国立研究開発法人国立がん研究センター先端医療開発センター (以下、国立がん研究センター先端医療開発センター) に設置されました。これにより、今後の実用化に向けた研究が開始されています。

PCCTには、レドレンの検出器材料を生産する結晶製造/加工技術を生かした、高品質な最新のモジュラー型フォトンカウンティング検出器が搭載されています。モジュラー型とすることで、検出器サイズの拡張や、製造、サービスコストの低減が可能となります。これにより、あらゆる臨床ニーズに対応した検査が実現可能となることが期待されます。

国立がん研究センター東病院の研究者
撮影イメージ

<https://jp.medical.canon/News/PressRelease/Detail/123600-834>

2025年に寄与する主な新商品・新機能

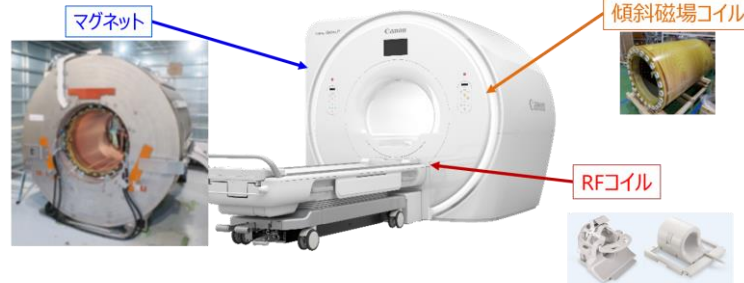
Aquilion ONE INSIGHT進化 Vantage Galan 3T / Supreme Edition

Canon独自のAI技術を追加搭載

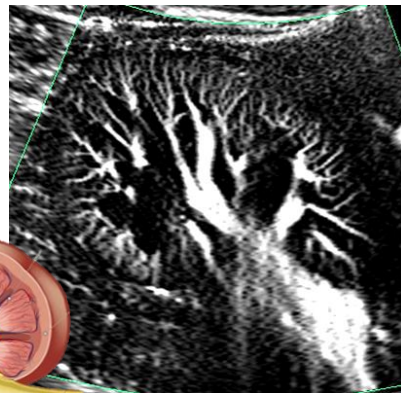
- AI高精細再構成“PIQE”に追加して、AI動態補正“CLEAR Motion Cardiac”を搭載
- さらに鮮明な心臓画像を提供し、診断の確信度を向上

AI技術を活かすためにハードウェアを一新

MRI : Magnetic Resonance Imagingは3種類の磁場で画像をつくる



超音波 新SMI “世界初” 腎臓の皮質内血流までも分離に成功



新3D経食道 (TEE)プローブ 高画質・高操作性の新 世代3DTEEプローブ



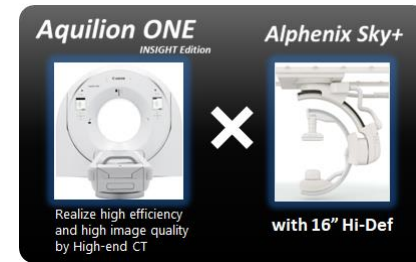
Alphenix / Evolve Edition

世界最大の循環器市場 から浸透拡大

グローバル展開（米国向けプロモーション開始予定）

Alphenix 4D CT

最新ハイエンドCTとの組合せ実現により、**Angio-CT市場トップシェア維持**



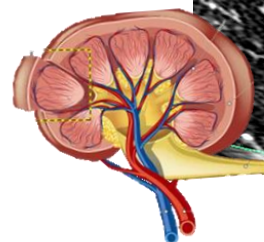
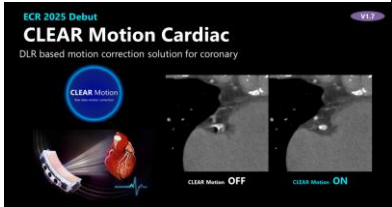
Radrex i5 Flex Edition

2025年2Q上市
アナログベースの現行シリーズの操作性を根本的に見直し、カメラアシスト機能とCXDI一体型DRシステムで付加価値を訴求



Adora DRFi

2025年1Q米国上市
NRT製の高付加価値DR装置Adora DRFiにCanon製の動画FPDe (CXDI-B1) を搭載



売上拡大と効率化により収益最大化を目指す

- サービス事業のDX化によりリモートサービスを強化、据付・点検・修理を効率化し、リソースのミニマム化の実現
- 顧客の資産価値を向上させるサービス提供（SLA/サービスソリューションの上市）
- 中央集約型オペレーションへの転換（経営資源の最適化）



顧客サイトにおけるダウンタイムのミニマム化



高い顧客満足度

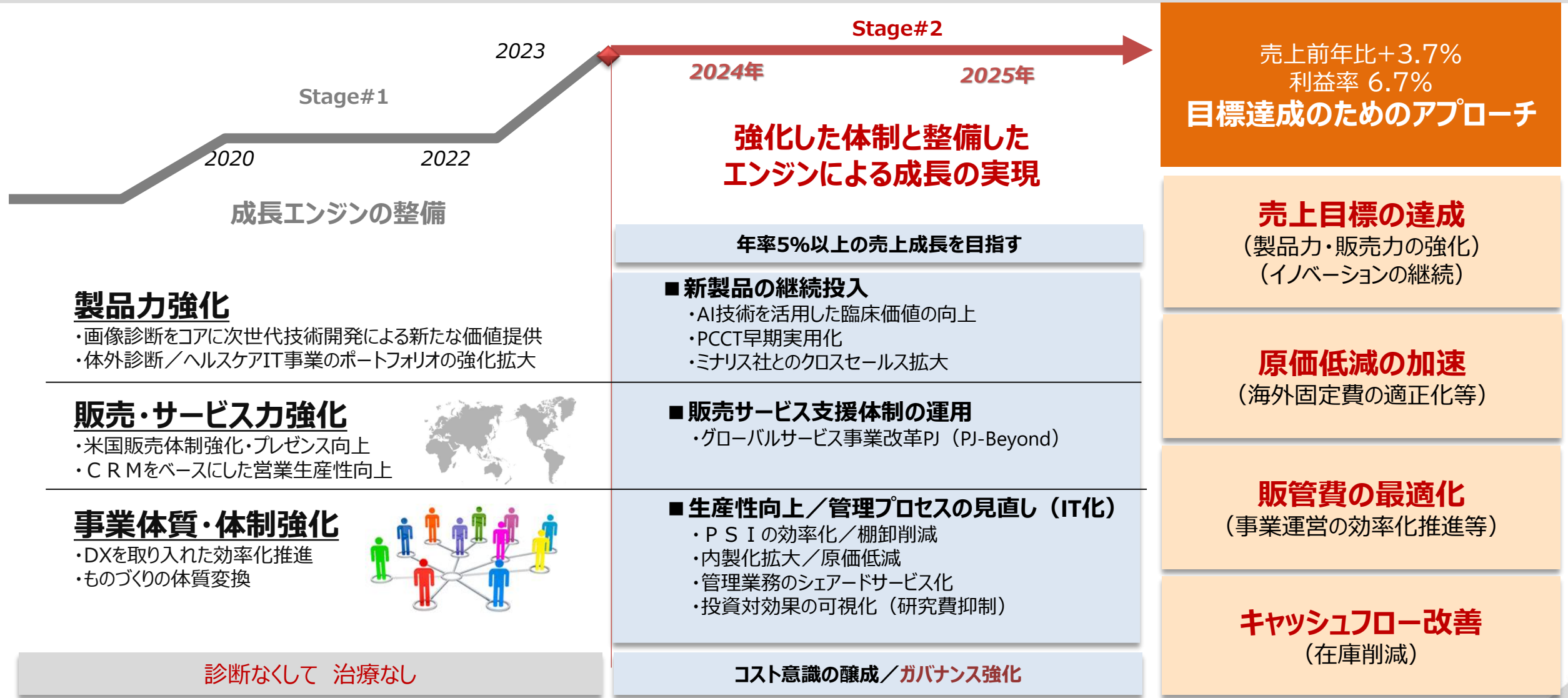


高い市場シェア・収益性



高い従業員エンゲージメント

2025年の見込み（PhaseVI 5か年計画最終年）



メディカルグループの目指す方向 ~プレジジョン・メディシンへの貢献~

現在の事業参入領域

検査・診断

事業拡大領域

個別化医療をサポートするソリューション

体外診断・バイオ

検体検査



各種試薬



病理診断

リキッドバイオプシ

遺伝子検査

再生医療



収集・統合



加工・提供

診療支援システム

読影支援システム

融合

画像診断・ヘルスケアIT

進化の軸

AI

誰でも簡単に、素早く、よりきれいに

形態診断

動態診断

機能診断

次世代画像診断機器
PCCT



発展の軸

AI

立位CT



CT：超高精細胸部画像

CT：心臓動態画像

MR：脳神経走行画像

Clinical Decision Support の実現

ビッグデータ解析

クラウドプラットフォーム

遠隔診断サポート

自家 iPS細胞の製造

再生医療プラットフォーム



プレジジョン・メディシン

個別化医療

- 投薬治療
- 外科治療
- 細胞治療
- 再生医療

経営スローガン

Made For life

患者さんのために、
あなたのために、
そして、ともに歩むために。